

話し言葉と書き言葉 ①	
名前	
組	
番	

◎ 次のカードは、話し言葉と書き言葉のどちらの特徴を表しているでしょう。

① 話し言葉 ② 書き言葉

()

内容を整理して、見直すことができる。

()

こそあど言葉で表すことができる。

()

声の調子、間の取り方などで気持ちを表すことができる。

()

言いまわしがいをすぐに直せる。

()

ふっふ、共通語で書き、語順や構成を整える。

()

語順が整わないことがある。

()

主語を明らかにしたり、誤字がないようにしたりするなどの注意が必要。

()

だれがいつ読むのかわからない場合がある。

()

文字が残る。

()

相手に応じて、言葉づかい(敬語を使うかどうか、方言か共通語か)を選ぶ。

◎ 次のカードは、話し言葉と書き言葉のどちらの特徴を表しているでしょう。

① 話し言葉 ② 書き言葉

話し言葉と書き言葉 ①	名前
	細番

(2)

内容を整理して、見直すことができる。

(1)

こそあど言葉で表すことができない。

(1)

声の調子、間の取り方など、
どて気持ちを表すことができる。

(1)

言い間違いをすぐに直せる。

(2)

ふっふ、共通語で書き、
語順や構成を整える。

(1)

語順が整わないことがある。

(2)

主語を明らかにしたり、
誤字がないようにしたり、
するなどの注意が必要。

(2)

だれがいつ読むのかが
分からない場合がある。

(2)

文字が残る。

(1)

相手に応じて、言葉づかい
(敬語を使うかどうか、
方言か共通語か)を選ぶ。

「だのじめ」

六年 組 番 名符 ()

1 短歌にしたが場面を決めよう。

自分の「だのじめ」を探し、様子や気持ちを書きかへ思い出し、三～五句の文章で解説しよう。

2 短歌を作ろう。

1の「だのじめ」を、五・七・五・七・五・七の三十一音で表しよう。

3 表現を工夫しよう。

2で作った短歌を見直し、使った言葉を別の言葉に言いかえたり、並べかえたりして、表現を工夫しよう。

4 「だのじめ」を「おんじびめ」「かなじめ」「ヒキヒキめ」「ハムハムめ」などの別の言葉にかえて、自分の気持ちを書きかへ、三十一音で表しよう。